

# ～世界一サンゴにやさしい村を目指して～

## 恩納村美ら海を育む会

### 恩納村地区について

恩納村地区は、沖縄本島のほぼ中央部西海岸に位置し、約 46 キロにも及ぶ海岸線全域が沖縄海岸国定公園に指定されている国内有数の観光リゾート地であり、年間 200 万人の観光客が訪れます。

観光客を対象としたダイビング等のマリンスポーツも重要な経済活動となっており、サンゴ礁は経済及び人々の生活に深く結びついています。



### サンゴの村宣言～世界一サンゴにやさしい村～

恩納村では、2018 年の「サンゴの村宣言」に基づき、世界一サンゴにやさしい村づくりを目指して、関係機関の連携を深化させ、様々な活動を推進しています。特に、恩納村商工会や村内のホテルを中心に構成される GM 会では、ふるさと納税など地域振興に関する取り組みを進めています。また、サンシャイン水族館や沖縄科学大学院大学等では、サンゴ礁保全に資する教育・普及啓発活動にも取り組んでいます。これらの中に、水産多面的機能発揮対策事業の活動も位置付けられており、大きな柱として重要な役割を担っています。



サンゴの村宣言  
Onna Village in Okinawa

### サンゴの現状と組織の設立経緯

恩納村のサンゴ礁には、キクメイシ、ミドリイシ、ハマサンゴなど全 17 科 63 属 224 種が生息しています。1980 年代より頻繁に大発生しているオニヒトデの食害や陸域からの赤土の流入等により、その分布量（被度）が減少しました。1998 年には、世界的なサンゴの白化等により恩納村のサンゴ礁も壊滅的な状態に陥りました。

そこで、恩納村漁業協同組合では、1998 年からサンゴ養殖の取り組みを開始しました。恩納村のサンゴ礁生態系の保全を推進するため、2009 年 7 月には、「恩納村美ら海を育む会」を組織し、サンゴ礁保全活動を本格的にスタートさせました。2010 年以降、オニヒトデの除去を積極的に行い、サンゴの被度が少しずつ回復してきました。2016 年と 2017 年には、海水温の上昇によるサンゴの白化・斃死が起こり、大きな影響を受けましたが、その後、徐々に被度の回復が見られています。

### 活動の効果と課題

#### (1) オニヒトデ除去の効果

恩納村海域では、過去 3 回のオニヒトデの大発生が起っています。本活動でオニヒトデの除去を継続し、オニヒトデの個体数を低く抑えようとしています。特に産卵前を狙って除去することで卵の拡散を効果的に防げるように活動を進めています。こうした人海戦術による除去の努力がみのり、最近のオニヒトデの資源水準は低下しており、大量発生は見られていません。令和 2 年の除去数約 750 個体は、過去の大発生の平成 9 年の約 1.8 万個体と比較すると 24 分の 1 となっています。



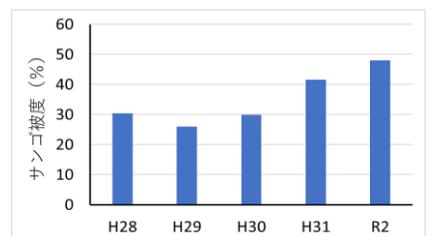
オニヒトデの除去

#### (2) サンゴ養殖・植え付け

植え付け用のサンゴ苗は、恩納村漁協が特定区画漁業権内において養殖している大型のサンゴより枝打ちをして確保しています。サンゴの生育状況を把握するために平成 28 年よりサンゴ被度（海底面積に対するサンゴの面積の百分率）のモニタリングを実施しています。平成 28、29 年は海水温上昇が確認され、その影響で平成 29 年のサンゴ被度は若干減少しましたが、それ以降は順調に被度が増加し、サンゴ群集の回復がうかがわれます。この回復は、サンゴ植え付けだけでなく、オニヒトデ除去との相乗効果と考えられます。



移植用サンゴの苗づくり体験



サンゴ被度の推移

#### (3) 今後の方針

サンゴ礁の保全および地域資源の維持・回復を図るため、引き続き、オニヒトデの除去、サンゴの植え付けおよびモニタリングを継続していきたいと考えています。そして、サンゴの村宣言を推進していくために、地域の小中学校に継続的なサンゴ教育を進めていくとともに、観光分野との持続的な共存を図っていき、SDGs の掲げる全 17 分野に資する活動を目指して広げていきたいと考えています。



オニヒトデ食跡

### 活動内容

「恩納村美ら海を育む会」は、恩納村の地先に広がる約 3,000ha にも及ぶサンゴ礁の保全および地域資源の維持・回復を図ることを目的として、関連する取り組みと連携しながら、主にオニヒトデの除去およびサンゴ養殖・植え付けの活動を行っています。

オニヒトデの除去については、資源量を人為的にコントロールし、大量発生を未然に防止するため定期的に実施しています。サンゴ養殖・植え付けについては、無性生殖法（枝打ち）により植え付け用のサンゴ苗を確保し、サンゴ群集再生のため養殖した苗を海域に植え付けています。

